



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 120

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 120. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1962, 120: 55-62

ISSUE DATE:

1962-09-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186919>

RIGHT:

荒
笑
り
人

京都大学瀬戸臨海実験所振興會

水族館月報

N O. 120

1962. 8月 (9月5日)

録 事

8月8日 首席固有財産監査官大藏事務官本莊千弘氏・大藏省近畿財務局管財部固有財産監査官大藏事務官溝田沢之助氏外1名。京都大学より主計課長波部肇氏・固有財産係長川上利一郎氏外2名固有財産関係の監査にともなうて来館。

全日 榎山技術員は盲腸炎にて国立田辺病院に入院。手術を受ける。その後は経過良好にて17日退院、月末まで自宅で静養する。

8月19日 時岡委員および荒賀研究員は淡虫水族館の研究会に参加のため本日出発、23日帰館。

業 務 概 況

◎ 8月の入場者数

区 分	大 人	中 人	小 人	合 計
水族館発売	12741	809	3513	17063
団体	10031	—	—	10031
交通公社発売	3972	—	—	3972
近畿日本発売	222	—	—	222
日本旅行会発売	52	—	—	52
明光バス発売	29867	—	4412	34279
合 計	56885	809	7925	65619
累 計	312548	1549	13623	327720
無 料	近畿海運局員他		10	499

団 体：一般 134組、学生 31組 合計 165組

◎ 8月の事業収入

(今年度累計)

観光券売上金	1,110,133	8,832,314
窓 口 発 売	643,880	4,131,583
交通公社クーポン	105,503	900,599
近畿日本ツリストクーポン	5,912	46,724
日本旅行会クーポン	1,368	20,618
明光バス観光券	353,470	3,732,790※
予金・積立金利子	720	720
手 数 料	9,765	244,167
絵 は が き 拂 下	93,870	397,200
パンフレット拂 下	16,290	56,550
南極生物報告拂 下	—	1,830
魚 類 拂 下	12,800	20,400
雑 収 入	3,960	23,520
諸施設改善積立金より繰入	4,542,400	4,542,400
合 計	5,789,938	14,119,101

※ 明光バス観光券未収分

大人券 33505枚

小人券 4889枚

(56)

水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	230,444	1,474,326	
会 議 費	30,990	81,855	
備 品 費	627,900	769,045	15Hエスロンケミカルポンプ
消 耗 費	522,346	862,232	塩板、魚名板、予備ガラス他
事 業 費	215,445	483,294	
維 持 費	412,980	608,761	岩組工事他
其 他 諸 費	221,504	798,007	建物及物件借用料他
積 立 金	292,538	1,743,030	
予 備 費	—	—	
合 計	2,554,147	6,820,550	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研 究 費	—	48,350	
奨 学 金	10,000	50,000	
備 品 費	—	2,650	
消 耗 費	—	—	
刊 行 費	307,900	307,900	Publ. vol. 10, no. 1 他
役 務 費	135,206	847,716	構内外縁改修費他
合 計	453,106	1,256,616	

伝物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	4,580	32,160	花岡研究員旅費
備 品 費	—	—	
消 耗 費	—	—	
役 務 費	—	—	
合 計	4,580	32,160	

臨時費

摘 要	金 額	累 計
海水温度調節装置残金	249,840.0	
才三水槽室建築工事残金	2,044,000	
合 計	4,542,400	4,548,060

支出合計

(今年度累計)

水族館経費	2,554,147	6,820,550
実験所経費	453,106	1,256,616
伝物館経費	4,580	32,160
臨 時 費	4,542,400	4,548,060
合 計	7,554,233	12,657,386

◎ 8月末現在高

前月よりの繰越	3,226,010
今月の収入合計	5,789,938
今月の支出合計	7,554,233
現在高	1,461,715

◎ 前年度との比較

	1961	1962	増 減
入 場 者 数	60551	65619	+ 5068

水族館記事

- ◎ 3日 I・J水槽の洩水止め再工事が終り、展示再開。K水槽はなお洩水が止らずやり直す。
- ◎ 4日 E水槽で南館以来人気を集めていたエビスダイは白点病と高水温のため遂に死亡、G水槽の冷却海水を利用して一時低温での飼育を試みたが、効果は認められなかった。
- ◎ 11日 No. 25水槽の給水弁が腐朽し、つまって給水管が著るしく減ったが、この水槽は、第1水槽室の客はけの都合上、将来、取り除く予定なので、給水弁の修理はしない。これまでこの水槽で行なっていた新着水族の計数、分類は、R1の一部を改良し、そこで行なう予定である。なお、水温・比重は今後No. 24水槽で測定することにした。
- ◎ 14日 K水槽の洩水止め最終工事終る。
- ◎ 15日 海水取入口にたまっていた砂利のために、最低潮時(11.34-13cm)には、15馬力ポンプで揚水できなくなったので、翌16日より4日間、取入口マンホールを清掃した。
- ◎ 16日 H水槽の洩水止め再工事開始
- ◎ 25日 6月末に入槽したクロホシマシジウダイ(熱帯魚商の水槽で淡水に馴化されていたもの)は、自然海水への逆馴化に成功し、チヨウチヨウウオ類の幼魚と同居させた。
なお、本種と同時に入槽したテッポウウオは、残念ながら4個体とも死亡した。クダタツ ミスジリュウキユウスズメ コバルトソラスズメ等は、いぜん元気で、卓上水槽を賑わせている。
- ◎ 31日 H水槽の洩水止工事終る。
- ◎ 卓上水槽を除いて、新館各水槽は先月から、洩水止め工事と白点病の被害のために休槽が多く、甚だ不面目な状態が続いたが、この月末で工事も終り、白点病対策も餘々ではあるが効果が現れて来ているので、秋の観光シーズンまでには、充実させられる見込である。
- ◎ G水槽のタカアシガニは5個体とも健在で、越冬飼育に成功した。この間、冷却装置は自動運転をスムーズにさせるための冷媒充量調節と操作盤内配線の小修理を行なったほかに異常なく運転を続けている。

◎ 8月の採集作業

日 時	採集場所	方 法	人 員	主な目的
9日午後	北浜の磯	潜 水	2名	飼料用アミ類
10日 〃	塔島東側	〃	2〃	ソラスズメダイ
11日 〃	〃	〃	2〃	チョウチョウウオ
13日午前	四ノ又 島	タイドプール採集と磯釣	3〃	熱帯性の小魚
〃 午後	〃	潜 水	3〃	ハナダイ、ブダイ
16日午前	町月島前の磯	タイドプール採集	1〃	小エビ類
23日午後	取入口附近	潜 水	2〃	チョウチョウウオ類幼魚
27日午後	かなとこ隠辺	潜 水	2〃	ベ ラ 類
30日 〃	町 月 島	磯 釣	2〃	クロメジナ

◎ 主な採集水族名

魚類：ゴンズイ インガキダイ クロメジナ キンギョハナダイ オオモンハタ
コログイ フエダイ クロスジギンボ イタチウオ イソスズメダイ シマスズメダイ
スズメダイ ソラスズメダイ ハクセンスズメダイ ニシキベラ ムナテンベラ
イトヒキベラ ブダイ トゲチヨウチヨウウオ アケボノチヨウチヨウウオ チヨウハン
シマハギ カンランハギ ムラサメモンガラ モンガラカワハギSP シマウミスズメ
シマキンチャクフグ

無脊椎動物：サンゴイソギンチャク オトヒメエビ サラサエビ フトユビシャコ
イソカニダマシ トゲアシガニ ケブカオウギガニ コイボウミウシ トコブシ
ウランマ ヤツシロガイ オキノデズルモズル タコノマクラ

◎ 主な購入水族名

魚類：ネコザメ シロザメ サカダザメ アカエイ クロアナゴ モンガラドウシ
ゴイシウミヘビ ハモ ウツボ トラウツボ ワカウツボ ヒメエビス マアジ
コトヒキ キス イラ オニカサゴ

無脊椎動物：ガザミ タイワンガザミ テングニシ

◎ 8月31日現在飼育中の動物は、総計271種、2560個体以上で、その内訳は次の通り、このうち観覧水槽に収容展示中の動物は262種、2490個体以上、

カイメン類 2種 多毛類 3種 ウミシダ類 4種
 ヒドロ虫類 1〃 カブトガニ類 1〃 ヒトデ類 7〃

ヤギ類	6種	フジボカメノテ類	1種	クモヒトデ類	4種
ウミエラ類	1〃	エビ類	14〃	ウニ類	13〃
イソギンチャク類	10〃	ヤドカリ類	4〃	ナマコ類	7〃
イシサンゴ類	9〃	カニ類	19〃	ホヤ類	5〃
ソノサンゴ類	1〃	アメフラシ類	2〃	軟骨魚類	6〃
ハナギンチャク類	1〃	ニ枚貝類	12〃	硬骨魚類	110〃
ホウキムシ類	1〃	巻貝類	19〃	(内熱帯淡水魚)	19〃
		タコ類	1〃	カメ類	3〃

資 料

◎ 8月の水温 (09時観測)

南水槽室 (水温・比重はNo.25水槽、11日以降 No.24 水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数 : 17	5	8	7
室 温 (°C)	$\frac{27.0 \sim 29.0}{27.9}$	$\frac{26.6 \sim 28.1}{27.0}$	$\frac{27.2 \sim 29.2}{27.8}$
水 温 (°C)	$\frac{26.41 \sim 27.62}{26.93}$	$\frac{26.00 \sim 26.62}{26.31}$	$\frac{24.82 \sim 27.00}{26.34}$
比 重 (°15)	$\frac{23.06 \sim 23.64}{23.39}$	$\frac{22.84 \sim 24.13}{23.32}$	$\frac{23.80 \sim 26.72}{24.68}$

取 入 口

水 温 (°C)	$\frac{26.22 \sim 27.48}{27.09}$	$\frac{25.86 \sim 27.00}{26.42}$	$\frac{25.48 \sim 28.00}{26.74}$
比 重 (°15)	$\frac{23.41 \sim 23.70}{23.57}$	$\frac{22.93 \sim 24.23}{23.23}$	$\frac{23.79 \sim 24.47}{24.25}$

新 館

水	H (°C)	$\frac{26.2 \sim 26.7}{26.5}$	$\frac{26.0 \sim 26.6}{26.1}$	$\frac{24.6 \sim 27.5}{26.4}$
温	T _B (°C)	$\frac{26.5 \sim 27.1}{27.0}$	$\frac{26.2 \sim 26.9}{26.4}$	$\frac{24.8 \sim 27.8}{26.5}$

来 訪 録

8月9日 みさき水族館々長堀家邦男氏並に南海観光開発株式会社事務取締役永井悦三氏視察のため来館。

8月15日 大阪気象台長 理学博士大谷東平氏並に白浜気象通報所長枝宮昭隆氏に視察のため来館。

昭和37年9月5日 (NO. 120)

編集兼

発行着

発行所

宮 地 伝 三 郎

瀬戸内海実験所振興会
和可山県 白浜町
瀬戸内海実験所内
(Tel. 白浜温泉 515)